

氏名(本籍)	山 <sup>やま</sup> 口 <sup>ぐち</sup> 正 <sup>しょう</sup> 二 <sup>じ</sup> (新潟県)
学位の種類	博士(心理学)
学位記番号	博乙第924号
学位授与年月日	平成5年11月30日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
審査研究科	心理学研究科
学位論文題目	生徒の教師認知における心理的距離に関する実証的研究
主査	筑波大学教授 原野 広太郎
副査	筑波大学教授 杉原 一昭
副査	筑波大学教授 松原 達哉
副査	筑波大学教授 小島 弘道
副査	筑波大学教授 中司 利一
副査	筑波大学教授 市村 操一

## 論 文 の 要 旨

本研究は、生徒と教師の相互作用における両者の心理的距離を「心理的距離測定スケール」を用いて操作的に尺度化し、その実態を明らかにすることを目的として行われた。また、生徒と教師の心理的距離に影響を及ぼしていると推測されるさまざまな要因を分析し検討することを目的とした。さらに、生徒と教師間の心理的距離の分析や検討を通じて、教師に求められているカウンセラー的資質や力量を検討し、生徒と教師のよりよい信頼関係や人間関係の樹立について考察を加えた。

論文は、以下の7章から構成されている。

- 第1章 心理的距離に関する先行研究の概観と本研究の目的
- 第2章 心理的距離の定義および測定尺度
- 第3章 心理的距離の測定に関する研究調査
- 第4章 心理的距離に影響を及ぼす要因に関する研究
- 第5章 心理的距離に影響を及ぼす教師の特性に関する研究
- 第6章 心理的距離を規定する諸要因の関連性の検討
- 第7章 本研究とまとめと今後の研究課題

以下に各章の概要を記す。

第1章では、心理的距離の背景となっているパーソナル・スペースに関する先行研究を概観し、近年、心理的距離という概念が社会的場面における対人関係の分析において重要な概念になりつつある

ことを指摘した。

また、教育心理学の分野においても心理的距離に関する研究が報告され、心理的距離が学校教育現場において重要な要因となりつつあることを示唆した。

さらに、臨床心理学の領域においても、カウンセリングの基幹をなすカウンセラーとクライアントとの信頼関係に心理的距離の要因が重要な役割を果たしていることを指摘した。

このように、近年、社会心理学や教育・臨床心理学の分野、特に対人関係が重要とされる領域において、心理的距離の構造や心理的距離の規定要因の分析が試みられていることや先行研究を踏まえて、本研究の目的を明確にした。

第2章では、心理的距離の定義を「ある人とある人との間に存在する二者間の親密度・親和性・親近感の度合いや程度を表す概念である。」とした。さらに、従来、主観的で尺度化が困難とされてきた「心理的距離」に実験心理学的手法を援用し、その測定スケールを考案した。その心理的距離測定スケールでは、被験者と父親（あるいは、母親・親友）との信頼関係・親和性・親密度を「1」と規定したとき、自分たちの教師との心理的距離はどのくらいに設定されるかを評定させるものであった。心理的距離測定スケール上で、評定段階「1」は最も親密な関係を、評定段階「10」は最も疎遠な関係を表した。

その結果、父親基準スケールを用いた評定では、母親基準スケールや親友基準スケールを用いた評定より、心理的距離が親密であった。

第3章では、生徒と教師の心理的距離の実態が示され、中学生は高校生よりも教師との心理的距離を親密・身近に設定していることが明らかにされた。すなわち、心理的距離に発達の要因が大きく関わっていることが示された。

また、生徒と教師の交流と心理的距離の関係が検討され、教師とコミュニケーションを頻繁にもつ生徒では、ほとんどコミュニケーションをもたない生徒よりも心理的距離が親密・身近であることが示された。すなわち、生徒と教師の心理的距離は、両者のコミュニケーション頻度に大きく依存していることが明らかにされた。

第4章では、心理的距離に影響を及ぼす生徒の性格特性が検討された。矢田部・ギルフォード性格検査ならびにモーズレイ・パーソナリティ・インベントリーを用いて生徒の性格特性が測定され、性格特性と心理的距離の関連性が検討された。その結果、心理的距離は、生徒の性格類型や性格特性と深く係わりをもっていることが明確にされた。すなわち、外向的な生徒は内向的な生徒よりも教師との心理的距離を身近に親密に取っていることが明らかにされた。ならびに、心理的距離は、外向性・内向性の次元のみならず、神経症特性にも規定されることが示された。

また、生徒は自分の性格特性と同一かあるいは類似した性格特性を有する教師を理想的な教師として求め、心理的距離も身近に親密に設定されることが示唆された。

さらに、ある生徒がある教師の担当している教科が嫌いであったり、その教師の職務に対して否定的・嫌悪的イメージをもっていると、その教師との心理的距離は疎遠なり、これとは反対に、ある教科や職務に対して好感的イメージを抱いていれば、その教科や職務を担当している教師との心理的距

離は親密になることが明らかにされた。

第5章では、心理的距離に影響を及ぼす教師の特性が検討され、先ず初めに、教師の指導態度と心理的距離の関係が検討された。その結果、「生徒受容型」の指導を強くうち出している教師との心理的距離は、親密に設定されていることが示された。また、これとは逆に、「教師主導型」の指導態度が顕著な教師との心理的距離は疎遠に設定されることが明らかにされた。

次に、教師の自己開示特性と心理的距離との関連性が検討され、生徒の前で自己開示を多く行っている教師との心理的距離は、親密であると認知され、自己開示をほとんど行わない教師との心理的距離は疎遠に設定されることが示された。

第6章では、生徒と教師の心理的距離に最も影響を及ぼしている要因の分析・検討が行われた。その結果、生徒と教師のコミュニケーション頻度が最も大きな影響を及ぼし、その次に、教科や職務に対する好悪のイメージであることが明らかにされた。

第7章では、本研究の要約と総合的考察が加えられた。総合的考察は、①心理的距離測定スケールの検討、②心理的距離の実態、③心理的距離と教師のコミュニケーション、④生徒の性格特性と心理的距離、⑤教師に対するイメージと心理的距離の関係、⑥教師の指導態度と心理的距離の関係、⑦心理的距離を規定する要因の7つの観点より述べられた。

## 審 査 の 要 旨

本研究は、従来、曖昧で多義的に用いられてきた「心理的距離」という概念を明確にし、かつ心理的距離を独自の測定スケールを用いて操作的に尺度化したという点において、研究のオリジナリティあるいはユニークさが認められる。

教育現場では人間関係の重要な要素と考えられながら未開発であった「心理的距離」を操作的に尺度化した成果は高く評価される。加えて、この尺度を適用して、発達の要因・生徒と教師のコミュニケーション要因・生徒の性格要因あるいは教師の指導態度の要因と心理的距離の関連などをつぶさに分析し検討した成果は、その高い学問的評価ばかりでなく、教育現場に適用する道を開いた点においても、その貢献度は高く評価される。

また、本研究のデータ収集にあたり、本研究の内容が教育に携わっている現場の教師からの抵抗を受けることもあったが、筆者がそれらを克服して資料を収集したことも評価されてよいであろう。

本研究で得られた幾つかの知見は、今後、学校教育場面における生徒と教師のよりよい対人関係・信頼関係の樹立に資するものと確信する。

よって、著者は博士（心理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。